

# 岩国市の文化的景観（地理的条件）に関する 調査研究

上杉 和央

岩国市では岩国城下町域を中心とした文化的景観調査を実施しており、平成 27 年度、その地理的条件に関する研究をおこなう旨、受託した。これは次年度以降に本格的な調査を実施する際の基礎的な成果となるものである。

なお、平成 27 年 8 月 26-28 日の現地調査には壁谷奈央・喜馬佳也乃(以上 3 回生)・岡田英子・宮下遙(以上修士 1 回生)・島本多敬(博士後期 1 回生)が参加し、11 月 16 日の現地調査には壁谷奈央・宮嶋健太(3 回生)が参加した。

## 1. 古地図調査

岩国徴古館に所蔵される古地図資料についての調査をおこなった。徴古館には複数の年次の城下町図が残されており、それらを比較した結果、現在の街区は城下町成立時期に形成されたものをよく残していることが明らかとなった。

また、岩国藩領全体を描いた図があり、その検討から、岩国が陸運と水運の両方を重視した計画となっていることがうかがえた。

## 2. 景観調査

岩国城下町にかかる錦帯橋周辺について無人航空機（ドローン）を飛ばして、その景観を調査した。その結果、河川的作用が大きく影響する地形を活かした城下町形成がなされていること、そしてその名残を現在もとどめていることが改めて確認された。

また、旧岩国城のある山上に上り、旧天守の場所でもドローン撮影を実施した。現在は木々が成長して視界が限られているが、木々の上から撮影すると、旧山陽道をはっきりと見通すことができた。これによって、古地図調査で推測された陸運と水運の両方を重視した計画であるという可能性はより高まることになった。

## 3. 微地形調査

城下町地区（錦見地区）の詳細な都市計画図や下水道管配置図などを入手し、都市域の微細な傾斜を検討し、実際に現地調査をおこなって現在の水の流れなどを確認した。その結果、錦見地区では錦川に沿う方向に低い街路が 1 筋あり、錦川の旧流路の可能性があることが明らかとなった。なお、伝承では 3 本の旧流路があるということであったが、現在の地表面の検討からは 3 本の流路は想定し難い。



写真1 岩国徴古館での古地図調査  
(平成27年8月27日)



写真2 錦見地区の水路調査  
(平成27年8月28日)



写真3 ドローンによる空撮調査（平成27年11月16日）